

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 3 区分

【発行日】平成21年4月16日(2009.4.16)

【公開番号】特開2009-45740(P2009-45740A)

【公開日】平成21年3月5日(2009.3.5)

【年通号数】公開・登録公報2009-009

【出願番号】特願2008-269051(P2008-269051)

【国際特許分類】

B 2 3 D 47/00 (2006.01)

B 2 7 B 9/00 (2006.01)

B 2 7 G 19/04 (2006.01)

【F I】

B 2 3 D 47/00 A

B 2 7 B 9/00 E

B 2 7 G 19/04 A

【手続補正書】

【提出日】平成21年2月17日(2009.2.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

平面矩形のベース上に、モータによって回転駆動する円盤状の切断刃を備えた本体を設けると共に、前記本体に、前記切断刃の上方部分を覆うブレードケースを設ける一方、前記モータの出力軸に、前記モータ冷却用のファンを設けて、前記出力軸の回転に伴う前記ファンの回転で、前記本体外部から冷却用空気を取り込んで前記モータを冷却可能とした切断機であって、

前記ブレードケースに、前記モータの冷却用空気の一部を前記ブレードケース内に導く排気口を設けると共に、前記ブレードケースの上部における切断方向後方側に、前記ブレードケース内の空気を外部へ排出する吹出口を形成し、

前記本体に、前記モータの冷却用空気の残りの一部を前記ベースにおける切断方向前端際に向けて排出させるブロワ手段を設けたことを特徴とする切断機。

【請求項 2】

前記ブロワ手段は、前記ブレードケースの外面に沿って設けられ、前記冷却用空気を前記ブレードケースの切断方向前端に導くダクトと、前記ブレードケースに設けられ、前記ダクトによって導かれた前記冷却用空気を下向きに排出するノズル部とによって形成されることを特徴とする請求項 1 に記載の切断機。

【請求項 3】

前記ノズル部は、平面視で前記切断刃の延長面上に位置するように設けられることを特徴とする請求項 2 に記載の切断機。

【請求項 4】

前記ダクトは前記ブレードケースに対して着脱可能であることを特徴とする請求項 2 又は 3 に記載の切断機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

上記目的を達成するために、請求項1に記載の発明は、ブレードケースに、モータの冷却用空気の一部をブレードケース内に導く排気口を設けると共に、ブレードケースの上部における切断方向後方側に、ブレードケース内の空気を外部へ排出する吹出口を形成し、本体に、モータの冷却用空気の残りの一部をベースにおける切断方向前端際に向けて排出させるブロワ手段を設けたことを特徴とするものである。

請求項2に記載の発明は、請求項1の構成において、ブロワ手段は、ブレードケースの外面に沿って設けられ、冷却用空気を前記ブレードケースの切断方向前端に導くダクトと、ブレードケースに設けられ、ダクトによって導かれた冷却用空気を下向きに排出するノズル部とによって形成されることを特徴とするものである。

請求項3に記載の発明は、請求項2の構成において、ノズル部は、平面視で切断刃の延長面上に位置するように設けられることを特徴とするものである。

請求項4に記載の発明は、請求項2又は3の構成において、ダクトはブレードケースに対して着脱可能であることを特徴とするものである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明によれば、切断刃による風に加えてモータの冷却用空気も利用して切粉を排出できるため、切粉の詰まりを効果的に防止できる。また、ブロワ手段の採用により、冷却用空気を合理的に利用して切断位置が確実に視認可能となり、使い勝手が向上する。